

女尊男卑化が進んだ世界――

この世は、女性が男性を
支配する時代へと移行していた……



はい、確保です。
愚かですね……オス奴隷が女権国から
脱出しようたなんて。

逃げられなくて残念だったね！。
でも絶対許さないよ？
お前はたっぷりお仕置きしてやるから♡

お願いします……
ゆ 許して……



権力・軍事・法律
すべてが彼女たちの手の中。

男は家畜奴隷のように管理され、
彼女たちは彼等を
「オス」と呼んだ——



そんな女権社会の中で
密かに動く男たちがいた。

レジスタンス——

かつての自由を求め、活動する
抵抗組織である。

「彼」もその一人だった……

女権国への潜入任務を託された諜報員^{スパイ}。
しかし任務の最中、彼は捕らえられてしまった。

そして彼にはまだ、女権国が掌握していない
「レジスタンスの情報を知る者」
という価値が残されていたのだった。



ほら、ちっさと仲間の居場所、教えな？
それとも、もっと痛めつけられたい？

ぐっ……言うもんか！
俺は、お前ら女どもの様な悪には
絶対に屈しない……！

むちゅっ



ガッ

ガッ

ガッ...

ヒッ...

ヒッ...

強情なオスで面倒ね……
このままだと、情報を吐かせる前に殺しちゃいそうだし……

——仕方ないわね♡



????????

お前は

「特別尋問室」

行きね。

そこなら痛みじゃなくて、別のやり方で
情報を聞き出せるから♡

その声には、暴力的な苛立ちではなく

どこか楽しげな悪戯の気配が混じっていた。

女は男の腕を掴むと、引きずるように立たせ

別室へと連れていく。

この部屋で待つてなよ。

じきに特別尋問官さんが来るからね。

女はそう言って男を部屋に残し、帰っていく。

そこは、先ほどまでの冷たい尋問室とはまるで違っていた。淡い照明、柔らかな壁の色、ほんのり香る甘い匂い。

まるでリビングのような、妙に落ち着いた空間。

緊張感よりもむしろ、心が緩むような感触が支配していた。

そして——彼の目の前に、現れた。

はーい、初めまして♡
キミが女権国に忍び込んでたつていう謀報員のオス？
力任せの尋問じゃ口を
割らなかつたらしいね♡

(おっ………)

おっ、おっ、おっ

おっ、おっ、おっ



(「この女が特別尋問官!?.....は、裸だと!?)

しかもデカイ!身長も体格も俺より数段...それとこの.....)

あら♡な〜!?

女の子様の裸を見るのは初めて?

視線が私のカラダに

釘付けになってるよ♡

「な.....何が女の子様だ!

男の尊厳を踏みにじる女がッ!」



威勢の良いオスだね♡
まあ、男の尊敬〜とか言ってる時点で
まだ女の子様との格差を理解してない
残念な子みたいだけど
『なんだと……』



ふっ……
「これから私が遂行する
『おっぱい問題』を♡
キミがじっくりも気持ちはうーく
レジスタンスの仲間のオス共を
裏切れるようにしてあげよう♡
♡うん♡
♡うん♡

「お…おっぴら尋問だっ?」

そっぴら♡

キミがっぴらから「乳」なってる
私の「」の爆乳おっぴらを使って
尋問してあげるの♡



痛い「」なんて絶対しないよう
おっぴらで気持ち良くなっつて、
女の子様の言っ事なんでも
聞いてくれるおっぴら奴隷に
してあげるね♡

「色仕掛けのつてやつか……ふざけやがってー!

どんな尋問を受けても、俺は仲間達の居場所は吐かないぞー!

カツ」つげてる割には

声が震えているよ?

もしがして……

おっせーおっせーぱらぱら

ゴッつちせーせーおせえなかつ?

それしせ……

「おっせー尋問」って

聞いて……「せえええ

どくな」すたせるのか

楽じゃあせえせえにせえせえのせえせえな……♡

「な……せめるなッッ」



わざとらしく赤ちゃん言葉で男を挑発し、
その大きな乳房を誇らしげに揺らす尋問官の女。

（この女は武器も何もない丸腰の状態だ……
こいつをここで倒して女権国から脱出する！
もうチャンスは今しかない！！）

男は激しい怒りを煽られ
渾身の気力を振り絞って叫んだ――

「うおおおおっ！！！」

女と真正面からぶつかるように、
男は身体ごと飛びかかっていく。

一見、無防備な女の巨体に向かって
渾身の力を込めて……

――しかし

—むぐっ!?

あら♡

急に突っ込んできて
どうしたのー?

おっぱいに甘えたく
なっちゃった?

それとも……
「こんな弱い力で私のこと
倒そうとしちゃったのかな?」
いけない子だー♡
そのわるーい腕、掴んじゃうね

もいゅ♡

(なんだと……っ
全然効いていない?)

(どっこの女っ
ただデカいだけじゃない……
力が……っ
とんでもなく強い……っ(ー))

がんばれ♡ がんばれ♡

そんなへボい攻撃じゃ
女の子様は倒せないよう？

威勢が良かったのは
最初だけかな？♡

くす♡

もう体温が上がって汗がいらちちもってて、必死だね？

まだ私、何もしてないんだけ？w

丁度良いから」のまま

「おっぱい尋問」始めちゃうわ♡

っ!?

はあ……っ

はあ、ピクともしなさい！

（むんむん……っ）
くそお！

おん、ん、ん

大人と子供くらい体格差
だもんねー♡

どうして勝てるって
思ったんでちゅかあ？♡

力だけじゃなくて、

頭の方もよわよわな

おバカさん

なんでちゅかね〜？♡

赤ちゃん言葉で馬鹿にされて悔しい？

おっぱいに顔埋めたまま泣いても

良いんでちゅかあ？

おっぱい

くそっくそお！

こんなデカ胸……っ

ほら

「えーんーまーまー♡」

ってさw

あっはは♡

クスクス♥

だんだん息が荒くなつてきてるけど
もう疲れてきちゃった？

それとも……

ママのおっぱいに興奮
してるのかな？

!!!

おっぱい
が……

おっぱい
♡

はあ……

まさかそんな訳ないでちゅよねー♡
自分の全力が全く通用しなくて
馬鹿にしてくる敵の女に興奮する
なんてねー♡

あれえ？
なんか更に息が荒くなって
まちえんかあ？♡
もしかして凶星だったん
でちゅかね♡

はっはっ♡

はっはっ♡

クス♥だってボクくんってば、
さつきからずっと
ママのおっぱいの中の……

エツチで甘い香り♥に
大興奮してまちゅもんねー？♥

気付いてないとも思った？

ママはゼーんぶお見通し
でちゅよお♥

んぐっ
おっぱい♥



クス♥ ボクくんってば、
だいぶ息を乱してるけど大丈夫〜？
顔も熱くしちゃって♥
本当のこと言われて恥ずかしく
なっちゃいまちたか？

いったん深呼吸して、
息を整えたほうが
良いんじゃないでちゅかあ？

クス…
クス…

はぁん、
あっ♥

はぁ
っ♥

なーに？息を止めちゃって生意気〜♡
ふふっ♡おっぱいの甘い匂いで
力が抜けちゃうもんね♡

でもそんな抵抗もいつまで持つかな？

7ス... 7ス...

ちやんと呼吸しなまや
なおさら力が出せないんじゃない？

それに.....

221...♡

♡ ♡

息を止めたら、今度はおっぱいの感触も
だんだん気持ち良く感じてきてるよね？♡
ママのおっぱい♡
あつたかくて柔らかかくて、
ずっと包まれていたい♡♡って
なっちゃうよね♡♡

よわーいオスは、それが当たり前♡
オスはおっぱいの
前じゃ無力なの♡
だからあ……

フス…
フス…

おっぱい♡

もいゅっ♡

ぐんぐん…

さっさと負けを認めて、

オスども こと
仲間達の情報 ♡

教えて？

プライドなんか捨てて♡
女権国に協力してくれたら
ママとっても嬉しいなあ♡

ガク…
ぐ…

肌に張り付くような柔肉に

男のわずかな吐息が混じり、漂う湿気。

完全に息を止めるのも長くはもたない。

少しずつ呼吸をする度に、女のカラダから

発せられるぬくもりが肺に染みこんでいく。

「んむっ…… はあっ はあっ♡ はあ♡」

自分の顔を包む空間に確かな気持ち良さを感じる男。

気を抜くと意識までも支配され、つい従ってしまっそうだった。

——くすくす♡

と女が笑う。

甘く、優しくまるで幼子をあやすようなその声に

男は心地良さと同時に危機感を覚える。

（おっぱい尋問……舐めていた。

この女の胸は……おっぱいは危険だ！！

手遅れになる前に、今すぐ離れなければ……！！）

男は瞬間的に力を振り絞り、掴まれた腕を振り払い

女から距離を取ろうとするが——

がた……
びく……

自分から手を離してきたくせに
勝てなくて無いからって迷子で
ママ、許さないとえんよー？
しげいの間、なつぽいの甲で
反省ちまちまよっ♡

(んっ♡やわらかっ♡
……あっ♡！♡いっ♡いっ♡
身動きとれないっ♡♡♡)

むぎゅ♡

ビクッ

ガッ

抜け出そうとしてもムダでちゅよ？
ママがしっかり抱きしめてまちゅから♡
ママとの力の差は理解してまちゅよね？
おっぱいに閉じ込められたオスは
絶対に逃げることはできまちゅえーん♡



（息が……っ♡、早く……
抜け出さないと意識が……
た、たしめけてえええん♡♡♡）

でも大丈夫、安心して。

ママそんな酷い「J」してまぢえんからね♡

落ち着いて、僅かな隙間からなら
息が吸えるから♡さっさと「J」さっ

(♡o♡)

ほーら♡

鼻と口から、ゆっくり大きく吸ってえ……



ふう つはー♡ すうー♡ はー♡

(息が吸える……た、助かった……)

このまま意識を失なわないためにも
呼吸を整えるしかない……でも……♡)

そうそう♡お上手なちゅね♡

おっぱいから染み出る

エッチな濃密であまーい香り♡

そのままたっぷり吸い込んでね♡

(あぁっ！意識しないようだしてたのだから
だめえ♡おっぱいの匂いがある……♡♡)

はぁっ……

はぁ……



ふふー♡♡はぁ♡♡ふふふ♡♡ふふふ♡♡♡♡♡

くす♡全身ビクビク震えちゃって♡
それに呼吸も乱れてきているよ♡
おっぱいの谷間深くのえっちな空気
直で吸っちゃったろ、そっちならって
想像つきまちえんでちたかあ？♡

「めんどめんど」w
そうでもしないとボクくん、
おっぱいの中で意識失っちゃう
と「う」でちたもんね♡
仕方ない♡仕方ない♡



か
タ
...

か
ク
...

むぐぐ♡のはあ♡んめっ♡

(いっ)から吐してえー!♡ 頭変となるうう(♡)

まあ、ごっちみち今も意識犯されて
大変みたいでちゅけどねー♡

ふふ♡

でもボクくんは、辛くも洗石

かわいそつなだから解放してあげまぢゅね♡

おっおっ、びんが、びんが、びんが♡



か
タ
...

か
ク
...

なーんて、ワンデー♡

閉じ込めたままおっぱい揺らして
もっともみくちゃにしたい♡

(やめてえええ！♡咄してええ！♡
助けてええええん！♡♡♡)

えい♡えい♡えーい♡

ぶるんぶるん揺れるママの

凶悪爆乳おっぱいがボクくんの

頭をシエイクしちゃいまちゅ♡

はらりん♡

おんこ♡



ほほほほほ♡ほほほほほ♡
ゆっ♡ゆっ♡ゆっ♡ゆっ♡ゆっ♡ゆっ♡
んほ♡んほ♡んほ♡んほ♡んほ♡んほ♡
も♡も♡も♡も♡も♡も♡も♡も♡

あは♡ボクくんってば、おっぴょいの
中で溺れちゃってたいへん♡
も♡も♡も♡も♡も♡も♡も♡も♡
ママわかりまちえんw
頭まる♡とパイズリで意識♡と
犯されてる気分はぶっどろ♡か〜ん

は
ん
ん

ん
ん

っひい
い
い
い
ん
♡
♡

や
め
て
え
え
え
え
え
え
ん
♡
♡
♡



しばらくして――

息苦しさど、甘ったるい香りに包まれたまま、

男の顔はようやくその谷間から引き上げられた。

っ……はあ……っ

はあ……っ……！

……く……っ

女は男の目線の位置までしゃがみこみ、顔を覗き込む。

力が抜け、息を整えるだけで精一杯の男に対して

余裕たっぷりの笑顔で見下ろす女。

まるで弱った獲物を観察する捕食者。

両者の立場の違いは明らかだった――



おちん○んが大きくなるのって、
気持ち良くなってるって
「くっくっ」おちんよねー♡♡

しかもガマン汁で
ヌルヌルになってるしw

憎い敵の女に力で敵わず、おっぱいで弄ばれて♡
負けて♡苦しめられて♡興奮してるんでちんよねー♡
おっぱいマゾのザコオスくん♡

ああんっ♡

ち…

違うもん…♡

マゾなんかじゃ…



ふーん、

まだ否定する意志はあるんだ♡
でもそれもいつまで持つかかな？

おっぱい尋問はオスを……

おっぱい大好きマンゾちゃん♡

に、堕としちゃう尋問

なんでちゅよー♡

そ…

そんなあ……♡

やめて……♡

そうならたつせつは……♡絶対「勝てない」♡
次はその可愛いちゅの……♡おっぱい直接……♡おっぱい……♡
えいっ♡

いっ……あああああああああ♡♡♡

はーい♡ボクくんのマンチ○ぽが
ママのおっぱいに食べられちゃったー♡
勃起しててもママの爆乳が大きすぎて
呑み込まれちゃってるね♡

こんなの絶対勝てないよ……って
格差感じちゃうまぢゅね?♡

重くて……やわらかっ……♡♡♡

これ気持ち良すぎてっ♡ダメええ♡

その様子だと余裕も無いか♡
ずっと我慢してきたもんね♡
いっよ♡お漏らししちゃってっ♡

あひらり♡おっぱいおっぱい……♡♡♡♡♡

ママの
おっぱい♡



はい♡自いお漏らしびゅっびゅっ♡
おっぱいに挟まれただけで射精しちゃったね？
ボクくん、力だけじゃなくて
ち○ぽも弱〜いでちゅね♡

はあ.....♡ はあ.....♡

お顔も良い感じにとるけてきまちたね♡
ねえ？敵の女のおっぱいに気持ち良くなれて
射精しちゃって、もう仲間のオス共に合わせる
顔が無いんじゃない？

そ.....そんなじゃ.....♡

はっ...♡
いっぴゃっ♡

だつてキミ、仲間達の期待を背負つて女権国に
乗り込んできたのよ、成果ゼロよ」んか
マゾ射精なんてやらされて♡
情けないけども程がおりまぢもよー♡

んっひらら……♡

クス…

××

それ「……さっきから私に
「ボクくん」って呼ばれたり、
「でちもまぢも」って赤ちゃん言葉で
煽られて感じちやってるよね？
ママが気付かないけども思い
まぢたか〜♡

だ、だってえ……♡

だって何？w

どう言い訳するんですかあ？

こんな姿、もし仲間に見られたら

恥ずかしいですねーねー？

ねえ♡もうオスのプライド

なんか捨てちゃおう？

ママにレジスタンスの情報教えて？

お願い♡ボクくん♡



い……嫌だ……ッ

どうして？もうボクくんがママを倒せたり
女権国から逃げ出せる手段も無いって
わかるよね？もし協力してくれたら
オスにしては悪くない待遇もしてあげるよ？

そ、それでも……ダメえ……！！
勝てなくても……俺は……
仲間……裏切れないっ！

——ふん……ッ。

じゃあ……手控……にかせ……つ……
覚悟して……だ……いね♡



ほら♡射精直後の敏感ザ「ち○ぽ
パイズリでブチ犯しちゃいまちゅ♡

ツツ♡

あっひいひいひいひいんん!♡♡♡♡

ばんっ♡

ぬちゅ♡

アハハ♡可愛い声で喘ぎまちゅねー
腰が抜けそうなくらい気持ち良いでしよ?
これやられて正気でいられるオス
なんかいいからねw

これ無理ら……♡♡♡♡♡
んっ♡ひゃあぁ……♡♡♡♡♡

ぱんっ♡

はい♡2回目のお射精どぴゅどぴゅー♡でも休ませない♡
このまま金玉の中身カランポポになるまで
絶対に止ませせん♡

んぎらっ!そんなっ♡んぎゅ♡♡♡

だってママ、

「覚悟してね」って言ったよな?

クス...

ボクくん、言う事聞いてくれないから

その気になるまで虐めてあげるだけ♡

ザコい癖に生意気なち○ぽ、ぶっ壊れる

まで扱き続けまぢゅからな〜♡

あーあ♡

ちゅちゅ言えば止めてあげるの♡な〜♡

んぎゅ...♡んぎゅ♡んぎゅ♡んぎゅ♡んぎゅ♡♡♡

ばちゅ♡

んぎゅ♡

んぎゅ♡

また射精たー♡

でもまだまだ終わらなー♡

ほらほら、うらやまの尻を揉む区間は、おっぱいも揉むから♡

ザコち○ぽ容赦なく虐めちゃうから♡おっぱいも揉むから♡

ばちゅん♡ばちゅん♡

ぬっちゅん♡ぬっちゅん♡

いっぴいー!!♡♡あぁあッ!!♡♡

クス♡びゅるびゅる噴き

出てくるボクくんの精子が

ママのおっぱいでゼーんぶ

圧殺されちゃうってまちゅねー♡

かわいそー♡

ばちゅ♡

いっぴい♡
あぁあ♡

いっぴい♡

ちゅちゅと降参すぞはばらのLをー
ボクくんのち○ぽだっつて……
「え〜ん、助けてえ〜」
このままだと壊れちゃう〜
ママのおっぱい強すぎて
負けちゃうよ〜許して〜」
つて言ってるよ♡

オス同士の仲間意識だかなんだか
知らないけどさ、このみち全員
女権国の奴隷としてあげるから♡
ムダな抵抗なんかしちゃっ
いけない子には罰として……♡

はちゅ♡

ふちゅ♡
ちゅ♡

ちゅ♡
ちゅ♡

どうでちゅかーこれ？
刺激が強すぎて連続お漏らし
止まりまぢえんねえ？
ママのおっぱいはボクくんの
オムツじゃありまぢえんよ♡

ああああ♡♡

ひゃ...らめえ♡♡

クス♡

ママね、「おっぱい」も「お尻」も
何人ものオスのちゅの♡を
壊してるんでちゅからわ♡

ぬちゅ♡

びゅっ...

びゅ...

びゅ♡

そう♡反抗的だったり、弱って使い物に
ならないオス奴隷は…爆乳パイズリで
再起不能にしてあげるんでちゅよ♡
みんな泣きながら命乞いするん
だけど…絶対許しません♡

んあっっ♡♡
ひゃめっっ♡♡♡…♡♡♡

最後はち○ぽ壊れて廃人確定♡
オスなんて女の子様のおっぱいだけで
制圧できちゃう雑魚なんでちゅよ♡
悔しい？でもこれが現実でちゅからね♡

ぬちゅ♡

ぱちゅ♡

ぽちゅ♡

ひゅちゅ♡

オスは女の子様には勝てない♡
大きなおっぱいには絶対勝てない♡
もう射精の量もだんだん少なくな
ってきてるし限界近いよね？

ひ、ひゃあいの♡♡
だからもうっ♡お願い……っ

やっ♡
このままだと本当に負けちゃう♡
こんなひどい女なんかっ♡
おっぱいなんかで殺されたくないよぉ♡

ぬっ♡
ちゅ♡

ぱっ♡
ちゅ♡

ひゅっ♡
ちゅっ♡
ぽっ♡

つて……ぶっ♡アツハハハハ♡♡
大丈夫でちゅかあ？目の焦点がズレて
キモイアへ顔晒してまちゅよーw
馬鹿にされて、一方的におっぱいで
ち○ぽボコられてそんなに
気持ち良いんでちゅかあ？
もう完全にマゾじやんお前w
ち、違っ……♡ひざらら♡♡んああん♡♡♡

本当は仲間を裏切りたくないんじゃなくて
こっやって、エッチでっよー♡ママに
虐められたいだけでちゅもんねー？
良いでちゅよー♡このまま
意識ぶつとぶまでズリ犯して
あげまちゅからね♡♡

ぬちゅ♡

ばち♡

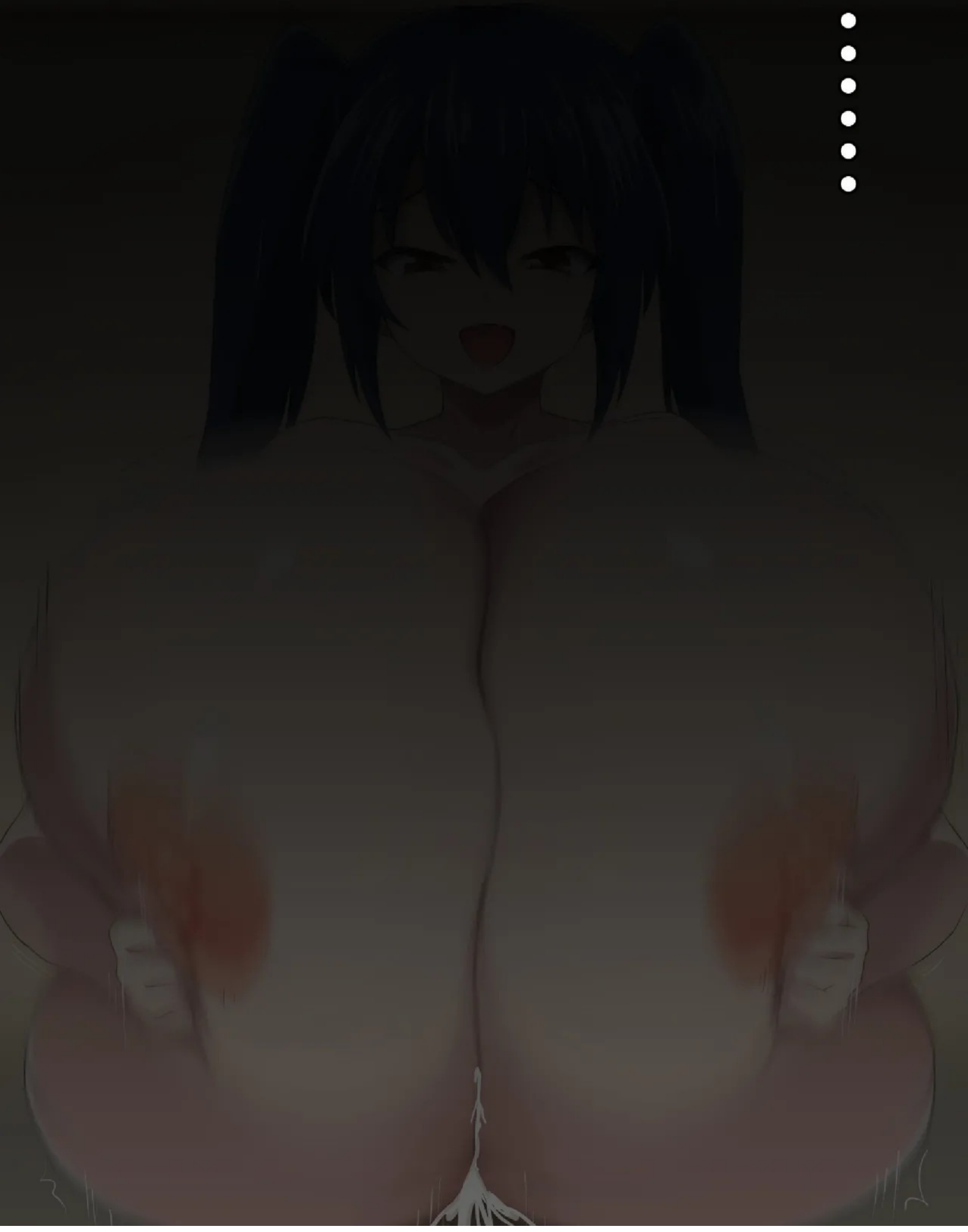
ママ♡

ひゅちゅ♡

ひいんツツ♡
もうやだあツ♡

助けてええん♡♡





尋問官による激しいパイズリの動きが
ふいに止まった。

宣言通り、男の精はこれ以上搾り尽くせない
ほどに奪われていた。
強烈な快感と度重なる射精の衝撃で
男の意識はすでに薄れかかっている。

「へえ、ザコオスにしてはなかなかの忍耐力じゃん♡
そんなボロボロな状態になってまで□を割らないなんて……
諜報員に選ばれるだけのことはあるね。」

「うう……」

「顔色ひどいよ？」

汗も涙も精液も、全部大量に出しちゃったもんね♡
そのまま意識を落としたら、間違いないで死んじゃうよ。」

(ぐっ……くそお……)

全身から体液を失ったことで、男の身体は
極度の脱水症状と損耗に苛まれ、もはや瀕死。
喉の渇きは声すら奪い、言葉を紡ぐことも
困難になっていた。

「でもね、「うちとしても利用価値のあるキミを
死なせるわけにはいかないんだよね。
だ・か・ら・あ……」

「ううん……はい♡乳首の先っぽから、
真っ白なミルクが溢れてせちゃいまちた♡
ねえ、くたばり損ないのボクくん？
ママの「J」のミルク
飲みた〜いでちゅよねえ？

♡…ふん

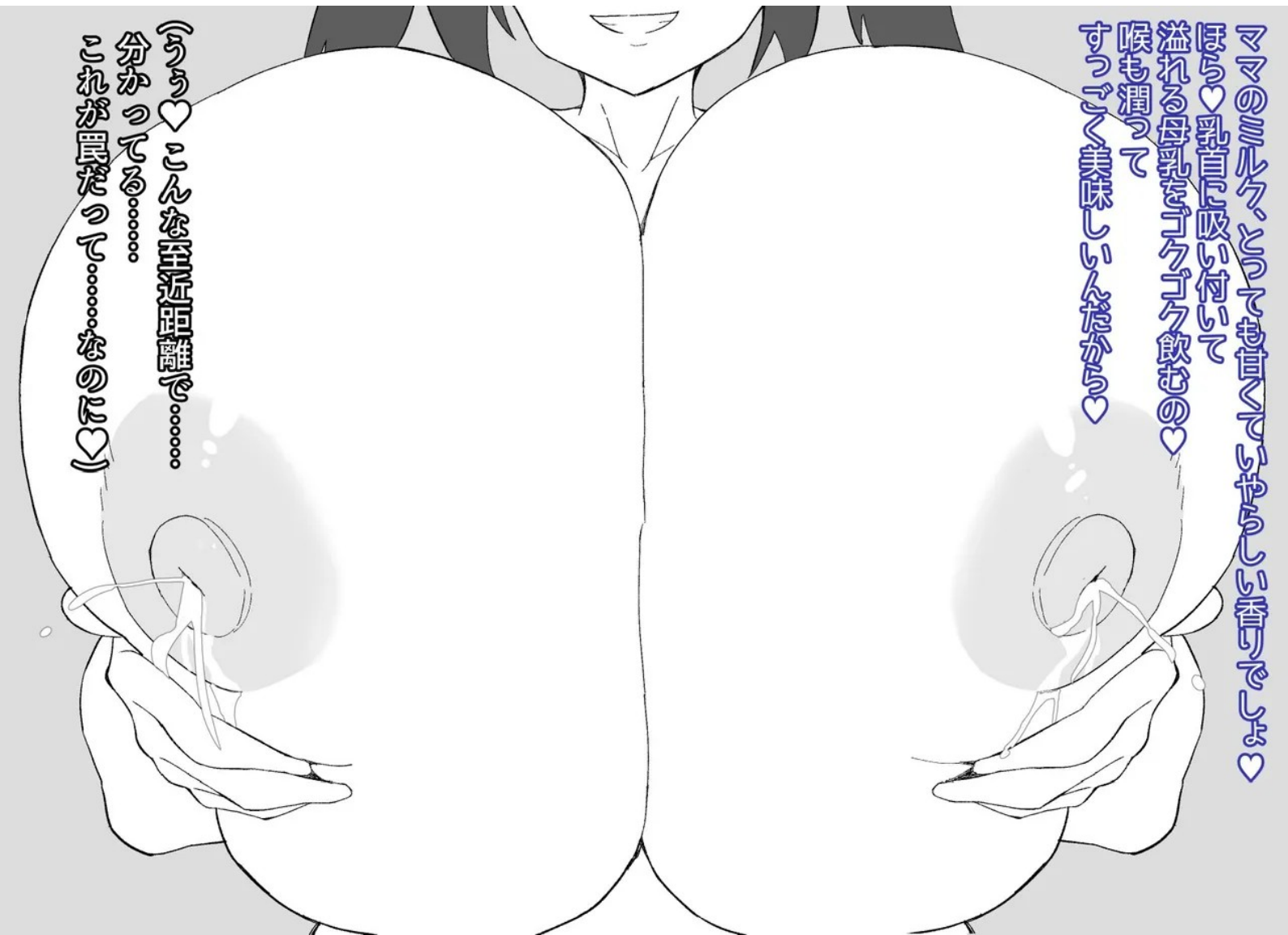
（な、何を言っ……

そんなもの飲むわび……
♡の甘い匂い♡

♡…ふん

ママのミルク、ごっくんせ直へん♪
ほら♡乳首に吸い付いて
溢れる母乳をゴクゴク飲むの♡
喉も潤って
すっごく美味しいんだから♡

うっう♡ごんを近距離で……
分かってる……
これが異なってる……なの♡



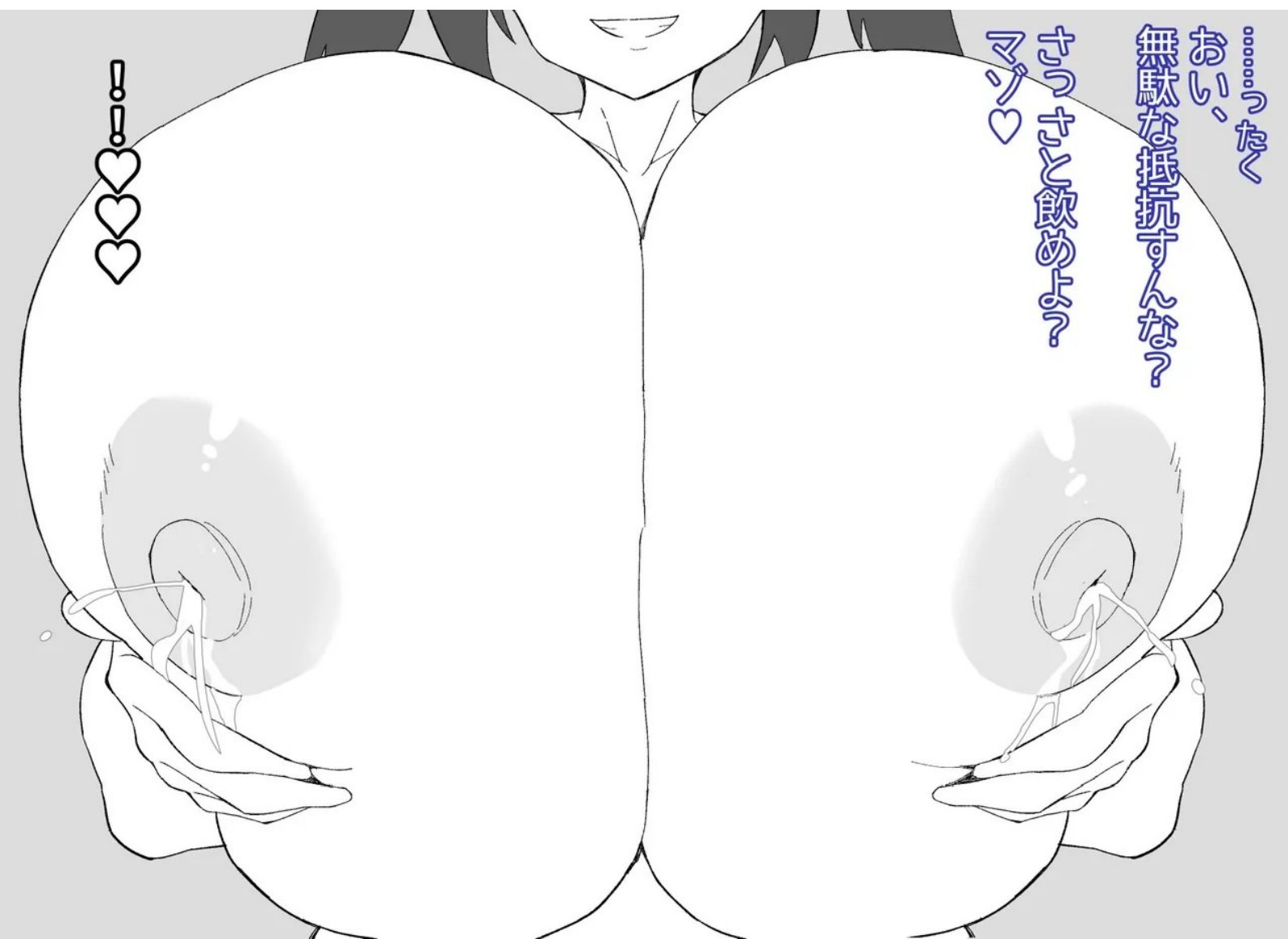
……ったく

おい、

無駄な抵抗すんな？

ちゅちゅと飲めよう？

マズン♡



それにね、「この母乳は中毒性ベンゼン」
一度口にしたらお腹いっぱいになるまで止められないの♡
今のボクくんが
その証拠だわえ♡

しかも成分が身体に残っている間は、ママに絶対服従♡
そんなに飲んじやったらもう完全に手遅れ♡
もしもこの状態で尋問したら
仲間の情報なんて簡単に聞き出せちゃう♡

（うう！こんな危険なもの……
飲むわけにいかないのに♡
もう止められないいいん♡）

（くっ♡最初からこれが
狙いだったのか……
もう終わりだ……）



—でもね、安心しなよ。

はい、命令。

もうミルク飲むの止めても
いいよ♡

くす...

オナニーもこれで終わり、
尋問もしないよ。

ハニキヤ...

(.....)

すん...

じゅ...

(なんだよ...
.....)



「キミ、結構見どころあるじゃ。今回は特別に見逃してあげる♥

仲間のと「ろ」に帰ってもいいよ。追わないし、私の負けだって「と」で構わないから」
「た、助かったのか……？ いや……」

「母乳ミルクはね、キミを回復させるために飲ませてあげただけだよ。
ほら、ナツナツと帰れば。いつまでしゃぶりついてんの？ それとも……」

「この女は……♥」

「せっかく見逃してあげるのに、
わざと私に敗北^{ママ}したいんでちゅかあ？♡♡」

（徹底的に俺の心を屈服させる気だ……!!）



(身体が熱い。震えが止まらない……あの母乳を、もつと飲みたい！
明らかに中毒症状だ……この女は、それに気づいてわざと俺を
逃そうとして……!!)

「んー♥なあに? 言いたいことがあるなら、ちゃんと一言わなきゃわかんないよお♥」
(くそっ♥白々しいにも程がある♥このデカ乳女あ♥)

「ほら? ママにぶっつけてほしいのか、ちゃんと聞かせてくださいサーーい♥」
(わかってるくせに……!!
でも俺にだってプライドがあるんだ、簡単には言えるかよっ♥)

「ふふ♥ お目々がもうトトロトトロになっつまちゅよお♥
おーい、もしもーし? ……はあ……」

(ああん♥おっぱい……おっぱい♥おっぱい♥おっぱい♥おっぱい♥)

「くすっ♡ それって屈服宣言ってこととで良いんでちゅかね？
仲間たちのところに戻るチャンスだったのに……裏切っちゃうんだー？」

「はひい♡ ボ、ボクの負けでひゅ♡ おっぱいには勝てまひえん♡
仲間なんかよりもママの爆乳おっぱいの方が好きでしゅ♡」

「うわあ、サイテー♡ じゃあ、とりあえずレジスタンスのアジトの場所、
それから人数規模や活動内容を教えてくれるかな？
そしたら気が済むまで飲ませてあげまちゅよー♡」

「ひゃい♡ 場所は女権国から西方の——、人数は——……」

「ふーん、そんな所で活動してたんだ。

「……その程度の規模なら脅威でもないし、少し泳がせて遊んでもいいかもね」

「ママあ……♡ おっぱい……♡」

「あーはいはい♡ それじゃあ仲間を売ったご褒美ミルク♡
たーんと飲ませてあげまちゅねー♡ ほら♡」

んっひいらんっ♡♡♡

たっぷり飲んでくださーい♡
ママね、女の子様の
味方してくれる
ザコ赤ちゃんは
だいぢゅきなんぢゅぢゅよー♡

くすくす♡そんなに夢中になって...ポクくん、自分が何をしたらか
分かってまちゅかあ？ 大事な仲間を敵に売り渡したんでちゅよう？

おっぱいらん♡おいらんっ♡
もう、いっのおっぱいらん無しぢゃ
生きてらけたやらん♡

ひいらん♡だっ♡だっ♡だっ♡



仕方ないでちゅよねえ♡
ママのぱいぱいミルクが
こんな巨エッチで
美味しいのが
悪いんでちゅもん♡

だからあー……そんな正直なボクくんのために♡
♡つむぎはスレーサとっせ

♡?♡



ミルクの濃度を更に濃くしちゃいまーちゅ♡
オスを発情させる凶悪な成分が
身体の隅々にまで
染み込んでっちゃう♡
あら大変♡

オスの意識を蝕む危険なミルク♡
いっぱい飲んでくださーい♡

（こんなの……
正気じゃいられないいん♡♡♡）

（んあぁっ♡脳が溶けりゅっ♡
ミルクで全身が犯されりゅ♡）
〜フェーン♡

かっ♡

ミルク……
ごっ……



そんなんじゃ無理だよ！お前さんの胸は命の源だから！

……うー、うー
ミルク「ほ」してるとちやないわさかー
せつかくママが飲ませてあげてるのよ、
駄目な子でちゅねえ♡

ん……

（だってミルク多すぎだし口から溢れて……♡）
「ん」

か……



——「オナニー開始」♡

水……

「射精しろ♡」



(♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡)

っ(11)

っ(11) っ(11)

まだ「早くしてあげるかな」♡
そんな態度じゃお仕事をこなしてあげられん♡

ほら、

「射精は♡」

「もっと射精せ♡」

「ザ」精子ぶちまける♡」

くす♡連続射精苦ぢいでぢゅかあ？

もっ♡の快樂地獄からは逃げられまぢゅんからね♡

ママのミルクをしっかり飲んでいれば精力は尽きないから

無限に射精できまぢゅよ♡

ただし、いっすれ身体も精神もボロボロになっぢゅうけぢゅね♡

あひら♡ちゅらら♡♡
あぁあぁあぁ♡♡)

ちゅら

ちゅら

ちゅら♡ちゅら♡ちゅら♡

ちゅら♡ちゅら♡

（ひぎい♡

頭おかしくなるうう♡）



んっひいひいん♡♡

許してえええええん♡♡♡

♡

♡

♡

♡



おっぱい

お尻

おまんこ

おまんこ

おまんこ

おまんこ

——数日が経った。

レジスタンスのアジトは静寂に包まれていた。女権国へ忍び込んだ諜報員からは定期的に報告が届いていた。

『無事に情報収集(作戦)は進んでいる』

——男たちは、そう信じて疑わなかった。

だが、その油断を切り裂くように、
予期せぬ二人の侵入者が姿を現す――

「ふーん、ホントにこんな場所に隠れてたんだ？」

「やつほー♡ オスのみんな、女の子様が会いに来てあげたよー♡」

「なっ……!?!?」

アジトの場所は仲間以外に知られるはずがない。
出入り口の扉も厳重なセキュリティで固められていた。
にもかかわらず、この丸裸の女たちは
まるで当然のように立っていた。

「くっ……」

男たちに動揺が広がる中、ひとりの男がゆっくりと前に出た。

「舐めるなよ。俺たちを捕まえて好きにできると思うな」



その声に仲間たちの視線が集まり、わずかに希望の色が戻る。だが、侵入してきた女たちはなおも余裕を崩さなかった。



「くす……『情報通り』出てきたね。

レススタンスの中でも屈指の武闘派くん。私たちに挑むつもりなんだ？」

「確かロイツが一番強いんでしょ？」

でも結局、他のオスと同じで大した」となすぞうだけ♡」



「お前ら……やはり俺たちの情報を握ってやがるな。
だが関係ない！ここで返り討ちにしてやる！」

男は勇敢に二人の女に立ち向かう。
だがしかし——



(あつひいいいりん!!)♡)

はい瞬殺?。ようわW

裸にひん剥いて、おっぱいサンドに閉じ込めてえ.....
ザコちのぽ確保♡

(ひゃひら!?!♡)



おっぱい♡

んがっ♡

ちゅっ♡

むちっ♡

ちゅっ♡

「そ…そんな…」

「あいつがこんな簡単にやられるなんて…」

他のオスども、私たちにどどどって全員動けないみたい♡
誰も助けに来ないんだけど？



力の差がありすぎて一方的だったもんね♡くすくす♡
女の子様に敗北けたオスがどんな目で見られるのか仲間達に見てもらおうね♡

(?!♡)

敗北おちのぽ♡しっしっしっしっ♡
ぷwガクガク震えてるけど何？
それで抵抗してるつもりなの？

（やめろ♡いっから出してえん……♡）

おーっ

く（い）く（い）

くっ

くっ

くっ

く（い）

おっぱいにキューって挟まれたら逃げられないし、カモ出せない♡
それどっからか気持ち良いんだよね♡
ホント雑魚過ぎw



うわっ、もうガマン汁がトロトロ溢れてきている♡
あれあれ？ちうきまで威勢よく吠えてたのロー？

馬鹿にされてマゾ興奮高まっちゃいまちたかあ？
ドクドク脈打っちゃって♡
もう射精カウントダウン完全に入っちゃってるね♡



(ひぎっ♡ だ、だめえ♡ みんなの前でえ♡)

顔が熱いね？そんなに恥ずかしいんだ？

でもマゾち○ぽは正直者♡

「ご覧くださいー！ー！ザコちん、もう我慢の限界でーす♡」

く(1)く(1)く

ぐ(1)ぐ(1)ぐ

く(1)く(1)く

楽してあげようか♡

はい、それじゃ合図で合わせて情けなく射精さっね♡

せーのっ♡♡



「射精^イけ♡」

「射^だ精せ♡」

（っあああああ♡♡♡）



あっはははは♡ 射精た射精た♡
降参の印の自旗お漏らし噴水♡
ぶっぴゅっぴゅー♡



お仲間のみんなも目上焼き付けたかな？
これが女の子様上完全敗北したオスの姿だよお♡

レジスタンスの男たちは言葉を失っていた。
組織の中で最強の男が女にあっさり封じられ、
嫩られ、精を搾り取られる姿は衝撃以外の何ものでもない。

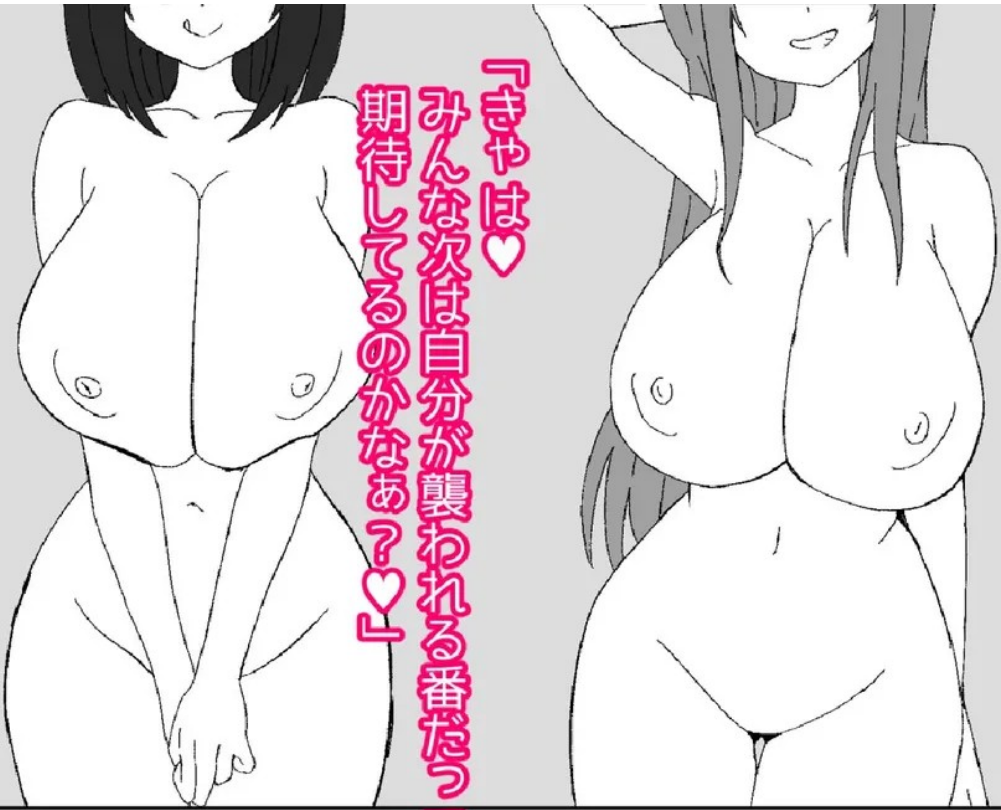
「そ、そんな！でも……♡」

「んん……♡」

だが同時に、その光景は妙な興奮を呼び起こした。
情けなく喘ぐ仲間の姿に、恐怖と同時に強い熱がこみ上げてくる。



「クス♡仲間がやられてると」見て興奮しちゃった？
アンタらも全員マソ決定だね♡」

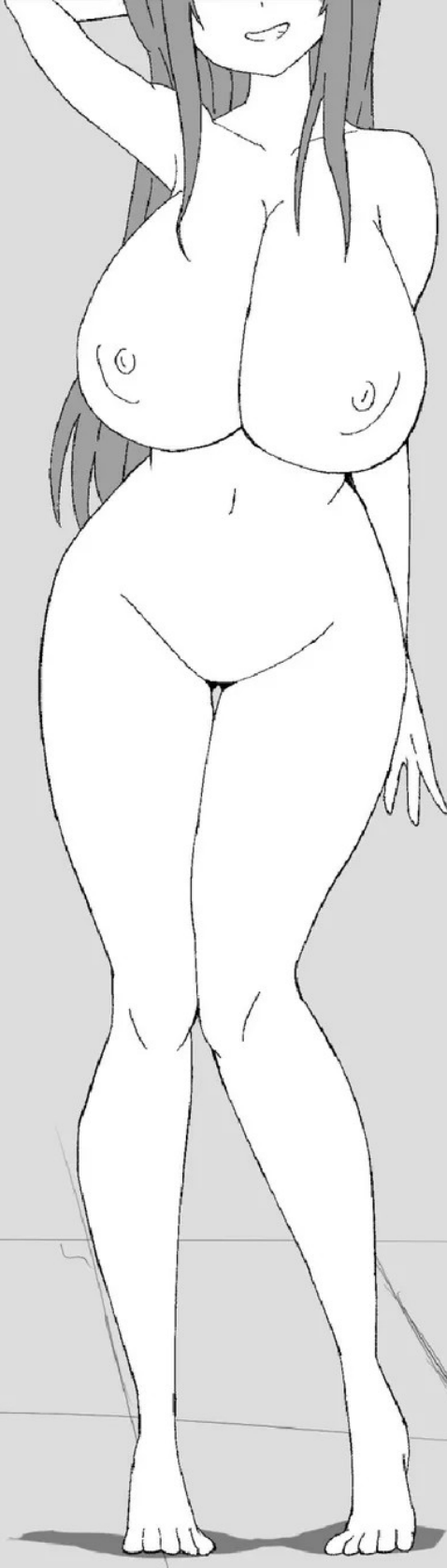


「きゃは♡
みんな次は自分が襲われる番だって
期待してるのかなあ？♡」

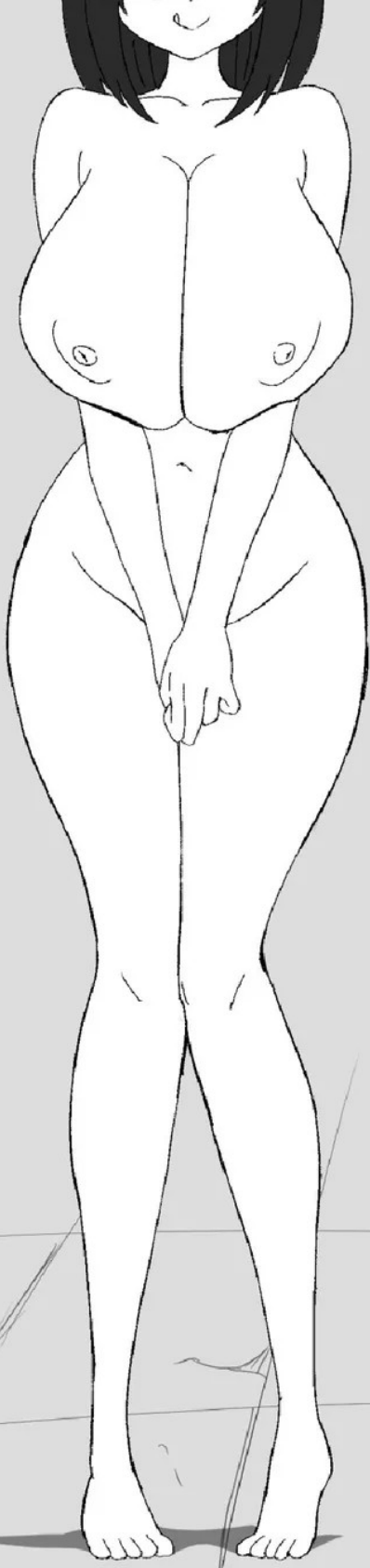


「ひいらり♡」

「この前」
ねえ、そもそも何でも「の居場所がバレたのが教えてあげようか？」



「アハハハ」



「アハハ」

「!?!」

突如として、アジトの大型モニターに通信映像が入った。

「なんだ、このタイミングで……?」

仲間たちがざわめく。そこに映し出されたのは、

女権国潜入任務に出ていた諜報員の顔だった。

「クスクス♡」

「ぷっ♡くく……!」

映像を見るなり女二人が吹き出す。

カメラが引かれ、全体像が映し出された瞬間。

場内に絶句が走る。

「レジスタンスが女権国に送り込んだ諜報員くんはねえ〜……」

「ご覧の通り、すっかり墮とされちゃって♡」

女の子様に利用されてまーす♡もう何日も前から、ね♡」

「そ、そんなはずはない！」

「だってアイツは今日まで俺達に報告を届けて……」

誰もが信じたくはなかった。

組織の中でも屈指の忠誠心を誇っていた男が、

敵である女の乳に縋りついている。

画面の女は、蕩けた表情で乳に吸い付く

諜報員の頭を撫でながら語りかけてきた。



ごきげんよう、レジスタンスのみなさん♡
もう理解したと思うけど、この自慢の諜報員^{スパイ}くんがキミたちレジスタンスの
情報をゼーんぶ私たちに教えてくれました♡

「くっ、でたらめを……!」

ウソじゃないよー。

ね♡ボクくん?

ひゃ、ひゃいい♡^{アジト}本拠地の場所と内部構造^つ

セキュリティの解除方法も、

レジスタンスのメンバーの情報も、

ぜんぶボクが喋りましたああ♡

ちゅぽ
ぽ...
...

おぎやう...
...

わく
く...
...



うんうん♥おかげで超簡単に襲撃できまわした♥よちよち♥

「う、ウソだろ！ってことは、ここ数日の連絡は全て罠だったのか!?!」
「あいつが裏切るなんて……」

ねえボクくん、今レジスタンスどもが、ボクくんが裏切ったのショックで
信じられないって顔してるよ？どっつして裏切ったんだっけ？

しよ、しよれは……女権国には

勝てないと思って……
降伏したほうが良いと……

ちゅぽ
ぽ……

むぎやう……

わく……



嘘付き♥ホントの事言わないとまたキツいお仕置きしちゃうよ??

んひっ! マ、ママの……ママのおっぱい飲みたいくて!♥
情報言えばおっぱいミルクたくさん飲ませてくれて気持ち良いからっ
おっぱいのために仲間を裏切りましたあああん♥

「なっ……!」



んっ…

んっ…

おい、レジスタンスの猿ども、ちやんと見てるか？
この変わり果てたかつての仲間の姿を♡
こいつもう私のおっぱい無しじゃ生きていけないんだよ♡

一生おっぱいにしがみついて、母乳飲まないで
禁断症状が出ちゃうようにしてあげたの♡
もう廃人同然よね♡

ちやい♡
ちやい♡

んっくん

「……」

あはははは♡ち○ぽに触れずにママの命令だけで
射精するカラダにされちゃったんでちゅよね♡
ホント馬鹿みたいwほらもつと

『射精せ♡射精せ♡射精せ♡
しばらく射精き狂ってる♡』

この裏切りマゾ♡♡

(やめてええええん♡
ママああん♡許してえん♡♡)

あはははは♡ち○ぽに触れずにママの命令だけで
射精するカラダにされちゃったんでちゅよね♡
ホント馬鹿みたいwほらもつと
『射精せ♡射精せ♡射精せ♡
しばらく射精き狂ってる♡』
この裏切りマゾ♡♡
(やめてええええん♡
ママああん♡許してえん♡♡)

あはははは♡ち○ぽに触れずにママの命令だけで
射精するカラダにされちゃったんでちゅよね♡
ホント馬鹿みたいwほらもつと

あはははは♡ち○ぽに触れずにママの命令だけで
射精するカラダにされちゃったんでちゅよね♡
ホント馬鹿みたいwほらもつと

くす♥これはお仕置き♥

レジスタンスを裏切った罰をお仲間さん達に代わって

ママが与えまぢゅ♥

これから仲間が酷い目に合うのも

ゼーんぶボクくんのせいでぢゅよーん♥

(ひいひいひいひい♥しよんなああ♥)

ニャ

ニャ

やーん♥大量射精止まりまぢゅえんね♥

たいへーん♥

ミルク飲んで栄養補給してないと

死んぢゅいまぢゅ♥

そして悪いママの「と」もっど好きになりまぢゅよーん♥

ひゅっ

どろあ...

ひゅっ

ひゅっ

がががが



つて……あーらら、狂い過ぎて気絶しちゃったか。
割と頑丈なオスだったけど、
もうそろそろ使いものにならなくなりそうかなコレも♡

……



あーあ♡
ほらっ？

やい
♡……♡

♡……♡

♡……♡

「こ、これが女権国の女……!」
「なんて恐ろしい奴なんだ!でも……♡」

さて、キミたちも残念だったね？信頼してた奴に裏切られてさ。
諜報員のが憎い？それとも……
羨ましいって思ったかなー？

「!?!?」

もしそうだとしたら降参して、大人しく女権国の奴隷になっちゃいなよ♡

まあどっちみちキミたちには選択肢は無いけどね♡

素直に捕らえられるか、抵抗して捕まるかのどっちかだけどw
ちようど今、キミたちを捕らえる為の

オス狩り部隊の本隊が全員到着したみたいだから♡

「なにっ!?!?」



奴隷になりたくなきゃ
せいぜい頑張って逃げなよ。
まあ、ムダだろうけどね♥

映像の女はそう言うのと
モニターが不意に暗転した。

プリン

一瞬の静寂。
次の瞬間、アジト内へ
全裸の女たちが
列をなしてなだれ込んでくる。



「オス狩り部隊到着〜♡
全員捕らえてあげるから覚悟しなオスども♡」

「うわあ……ボロい隠れ家。
よくこんな場所で暮らせるね♡」

ガヤガヤと好き勝手な言葉を
投げ合う女たちは、戦場に来た兵士
というより遊びに来た学生のように
余裕たっぷり。
だがその気楽さこそ、
男たちを底知れぬ恐怖で縛りつけた。

「ひっ……っ！」

「や、やめる……！」

「ち、近づくなあー！」

「何「じっ」くらビロ過ぎw」

「女の子様は怖くないでちゅよー♡
おっぱい飲みまちゅかあ？♡」

誰もまともに抗えない。
動揺し、足をもつれさせながら、
狭い空間で無様に
逃げ惑うしかなかった。



気づけば、

アジト全体が狩場へと変わっていた。

恐怖と騁り声が交錯する中、

オス狩りは静かに、

確実に始まったのだった。

逃げ惑う男たちの中、
一人はあっさりと捕らえられ、床に寝かされていた。
その上にのしかかる女の影――

逃げ場を失った獲物に悠々と覆いかぶさられた男は、
せめてもの抵抗を見せようとしていた――



ふふ♡かつぞくチビオス一匹、捕獲完了♡おこめ♡

ひいっ くそっ女め……離れるっ！

なあに？ ただ上を踏がられただけで
身動き取れないのかしらっ？

ようわっい♡

足を軽く押さえてるだけで
ガツチリ固定されちゃってるじゃない♡
ほら、手だけは自由だよ♡おげんかたっ、
がんばって反撃してみなさいよ♡

馬鹿でしやがってえ、このお！

あん♡おっぱい掴まれちゃった♡でもどっつかかな？
お姉さんのこの重たい爆乳♡
非力なチビオスくんの腕で押しつけられると思うっ？



しゅっ♡

しゅっ♡

もいっ♡

んっ♡

ほらほら頑張らなさい？お姉さんに座布団に押し込まれてちゃってる間にも仲間たちは他の女の子の餌食になってるわよ？」のままで悔しくないの？

はあ………あ………

くす♡そんなのが本気の抵抗だなんて

無知なオスってホント滑稽ね♡

教えてあげる♡

キミたちオスがどんなに必死になっても

私達、女の子様には絶対敵わない

力の差があるのよ♡

………

でもあまりにも惨めで笑えるからw

少し遊びに付き合っただけあげるわね♡



じゅっ♡

もじゅっ♡

えい………

じた…

はた…

はあ……あのね、チビオスくん？手加減されてるからって調子に乗ってる？
本当は私がその気になれば、お前みたいなゴキブリなんて
秒殺できちゃうって分かってるかしらん？

うっ……！？

嘘じゃないわ。
私たちオス狩り部隊は
女権国の精鋭よ。

己のカラダひとつでオスを制圧するなんて造作もないし、
今のお前みたいなのを押し潰して処刑するなんて、もっと楽よ？
だって力加減すら必要ないんだから♡

くっ………悪魔共………許せならー！

ったく、ゴキブリでも反抗的な態度ね？

女権国に通行する前に少し馴けておろすかしら♡



えいつ♡ えーい♡

イキつてたチビオスくんの体をお姉さんの

つよつよドスケベボディでプレス♡

むちむち下半身が降りてくる度に

内臓が圧迫されて

冗談抜きで苦しい苦よねえ♡

も、もう……がはっ！

た、助けて……！！

ぐんぐん

はっはっ

はっはっ

なあに？ギブアップ？

これは女権国の奴隷になる

オスへの「賤け」なのよ？

女の子様である私が許すまで止める訳ないじゃない♡

ひっ、そんなあ……んぎらっ！



それに♡

さっきから私のお尻に漬かれてるお前のち○ぽ、
だんだん元気がなくなってきているじゃない♡

んからー？ そそそれは……♡

はい

マゾ決定～♡

こんな「苦しい目」遭わねえの「
勃起しちゃうんだもの♡

それともさっきのお姉さんの演技でセックスしてらって
思っちゃった勘違いち○ぽなのかしら？

体格差ありすぎてセックスなんかできる訳ないのになねw
ほら、我慢汁もヌルヌルして、とっくに射精す前よね？

んひっ♡♡♡



そっかだ♡ 「J」のまま射精と同時に.....

『逆らうって「メンなせい♡女の子様の奴隷になりますから

許してくださいっ♡』

って言えたら♡

賤けは終わりっ♡してあげるわ♡

そ、そんないっ♡♡♡

言えるわび.....

は？ 言わなかったら.....

その小さい身体に本気で腰打ちつけて、

弱っちいちいっ♡ぽっ♡と骨まで粉々にぶっ壊して捨てるけっ♡

あ.....♡

脅しじゃ無いわよ♡ ほんまに.....

んっ♡、んっ♡♡



しやからって
ごめんなひやいいいいいい
ぼくはおんなのこひやまの
マゾ奴隷でひゅうううう♡♡

ゆるひてくださいいいいいいい♡♡♡

どっぴん

ぶいしゅん



あっけなかつたわね♡
この程度のオス共なら、遊びながらでも余裕で制圧できちゃうわ。
でもなかなか素直な良い子じゃない♡
決めたわ。お即、私専用の
サンドバッグ奴隷にしてあげる♡
今使ってるのも壊れそうだし
ちようどいいわ♡

しっ♡
しっ♡
しっ♡

は、はら……♡
嬉し……♡
毎日好きをだけポヨ……♡

ぶっ♡ もう負け犬根性丸出しね♡ そうそう、
女権国では上手に女の子様の機嫌を取れないと長生かておかないのよ♡
よく分かってるじゃない♡



「ふふ♡逃げ場、なくなっちゃったね？」

「く、来るなっ」

壁際に追い詰められた男は、必死に腕を突っ張って抵抗しようとした。だが女は微笑んだまま一気に距離を詰め、その大きな胸で男の顔を柔らかかく包み込む。優しく抱きしめられるように見えて、実際は身動きを奪う支配の抱擁。

むちむちとした乳房が頬を押し潰し、男の視界は一瞬で白い柔肉に覆われた。



うっぴー!? もじゅん

はい♡むっぎゆうん♡
お顔がおっぱいにすっぽりハマちやった♡
こうされると全身の力が抜けて抵抗できなくなっちやうでしょ?
まあできたところで私達には敵わないけどね♡
私は他のいじわるな女の子達と違って
優しく無力化してあげるから安心してね♡

おっぱい

むっぎゆうん



(ぐっ、そんな！ 動け、俺の身体……!!)

あら？まだ僅かに動くことができるのね。頑張るじゃない。流石はレジスタンスの一員といったところね。じゃあ……

このまま私のおっぱいに包まれるのがだあい好きなおっぱい好き好き奴隷ちゃんにしてあげる♡

(!?)



ほら、落ち着いて♡

今はただ、おっぱいの感触と温度を感じることにだけに意識を集中して♡

（おっぱい……ああああ♡だめえ♡力が…抜け……でも♡）

幸福感に包まれてきたでしょ？

柔らかくて、あったかくて♡

おっぱいがこんなに良いものだって知らずに

これまでキミは生きてきたのよ♡

可哀想にねえ♡

でもこれからはおっぱいが

あるからね♡

良かったねえ♡

（あああ♡おっぱい♡

おっぱいしゅきらい♡♡）

あつ…

あつ…



そうそう良い子♡「ーんなエツキな爆乳おっぱいで
ぱふぱふさせてくれる女の子様に逆らう理由なんかもう無いよね♡
オスにとって女の子様は女神様なの♡
それなのに今までコソコソ抵抗活動なんかして悪い子だったよね？
でもほら♡ もう抵抗する意志にバイバイ♡
辛かったレジスタンスとしてのつままない
日々にバイバイしようね♡

(おっぱい♡
女の子様しゅめいらら♡)



うん♥その調子で、もーっとおっぱい様のこと好きになろうね♥
そう、おっぱいじゃなくて、『おっぱい様』
当たり前だよな？オス奴隷の分際でおっぱいを呼び捨てして良い訳ないよね？
おっぱい様に向かって言うってごらん？
『おっぱい様』って♥

「もぎゅっ♥んっ♥もおっ♥」
（おっぱい様ああ♥おっぱい様ああ♥）

やあん♥
おっぱい様くすぐったらんで♥



んっ♥
もぎゅっ♥

んっ♥



興奮が高まってきたね♡
わかるよ、おちん○んの勃起止まらなくて
イライラしてるんでしょ？
おっぱい様もね、キミが情けなく敗北射精するところ見たいんだって♡
良かったね♡
ようやく射精させてもらえるよ♡

(!!♡)

じゃあ始めるわね。

「僕は女の子様には勝ち目が無いから媚びるしか能が無いクズです♡」

「僕はもうレジスタンスの戦士じゃなくて、女の子様のおっぱい奴隷です♡」

「おっぱい様を世界で一番愛しています♡一生おっぱい様に従います♡」

「僕は女の子様の笑い者として利用されることに喜ぶクソマゾです♡」

ぷっ Wぐぐ………W

全然腰へこ止まんないね？

だって答えが全部

『はい』

なんだから仕方無いよね♡



「これからの女権国での奴隷生活が楽しみで仕方ありません♡」

「こんな優しいぱふぱふじゃなくて

思いつきりおっぱい様に潰されて窒息したいです♡」

「たくさんの女の子様のおっぱい様で

ポコポコになるまで虐められたいです♡」



くすくす♡
そっかそっかあ♡

♡-♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

「だからもう早く射精かせてください♡
おっぱい様あん♡」

「雑魚ちんちん苦しいでしゅう♡」

「助けて♡助けてえーん♡」



♡...♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡

うん、もういいよ。

射精^イつちやえ。バーカ。

(あつひいいいいいいん♡♡♡)

アハハハ

ひん

アハハハ



くす♥

おっぱい様とかバカじゃないの？

それにしてもこんな簡単に洗脳できるなんてね♥
オスつて本当、チヨロすぎて笑えるわ♥



ぐんぐん

ぐんぐん

とろ...

「ううん、マジで弱すぎ♥」

「ほんと♥この調子なら予定より早く制圧できちゃうね。」

オス狩りを任務というより

ただの娯楽のようにこなす女たち。

完全に遊び半分の余裕すら漂わせていた。

逃げ惑う男たちも一人、また一人と捕まり、

あっけなく無力化されていく。

悲鳴は次第に喘ぎ声へと変わり、

抵抗の色は薄まりつつある。

そんな中でも

ひとときわ大きな女に絡め取られる男の姿があった。

「くそっ、離せ！ デカ女め！」

「あー、女の子様にそんな酷い」と言っっちゃダメじゃん。そんなボクくんには罰として……スーい♥」



♡♡♡♡♡

女の子様の大きくてエッチなカラダに閉じ込められちゃったね。

アタシ「このまま動かないであげるからさ、頑張って逃げてみなよ？
ボクくんみたいになっちゃうぜいザ」の力だし
どうあがいても抜け出せないけどな。

くっ こんなの！
えらっ このおっ

んんん

せっぽかぽか♡♡



アタシね、正直言っておス狩りとか興味ないし面倒なの。
任務だから仕方なくやってるけど.....

だからいつも、「おつやうて弱そうなオスを一匹だけ捕らえて
時間を潰して遊んでるの。アタシはただ寝てるだけ♡
今のボクくんみたいになビオスが無駄な抵抗するのを
放置してのリラックスタイム♡
責めてるフリして堂々とサボれるってわけ♡

いっのーんやがっど.....くそちー！

こんな「」と言われて屈辱的だよわ？
でも弱っちいから抜け出せない♡
そ..し..と.....♡



抵抗すればするほど、女体で圧迫された
この状態が気持ちよくなってるぢやう〜♡
んっひい!♡

バレバレだよ♡ まあ無理も無いよね。
こんな状態だと、もがく度に「察しがい
おっばいや太腿がむにむに♡
って擦れて興奮しちゃうもんね♡

体温が上がって
チビち○ぼは硬くなっちゃう♡
女の子様のカラダに勝てない
屈辱と興奮が紐付けされた
無力マゾ奴隷へ一直線♡



…って
腰へ「へ」振り始めてどうしたの？
台詞と行動が合ってなさすぎてウケるw
このまま射精してむちむち女体牢獄匠迫まん射精の
気持ちよさを知っちゃったらもう後戻りできないよ？

♡♡♡♡♡の♡♡♡♡♡ デカ女♡♡♡♡♡ 馬鹿だしやがってえ♡

何それ？アタシを攻めてるつもりなの？
あー、いるんだよね！ ポクくんみたいだ
勝ち目が見えなくなるよ気持ちよさを優先して
自分から負け始めるぜ！

しかも諦めなごで
攻撃してる「フニ」が「ムン」……

そんなの免罪符にならないから♡
ていうかそんな小さいち○ぽ
ぶら下げてのへぽい腰へ「が」
攻撃とか笑わせないでよ♡



だまれえ♡ この♡このお……♡

あーもう、はいはい分かった。
どうせ退屈だし良いよ。

あーん♡チビオスボクくんのへこへこ攻撃かつ「シューー」
爆乳に埋もれたフル勃起しても大した「とない」
ザコち○ぽが乳肉にぶたい♡ぶたい♡って
弱々しく押し付けられてるっ♡
もう女体牢獄の虜になってるくせに
認めたくないから抗ってるフリ
なんかしちやって素敵ー♡

仕方無いよね！。
こんな力の差を思い知らされたら
もう勝つ希望なんか無いし、
仲間たちも次々と堕ちていく♡

それなら自分も気持ちよく
なっちゃった方が得だもんね！。



こんなエツチで凶悪なドスケベむちむちボディに
閉じ込めたアタシの方が悪いもんね♡

最初は本当に抵抗してたのに不可抗力での
乳ズリが気持ち良すぎたもんね♡

カラダだけで支配されるの
好きになっちゃったもんね♡

もっと思いやりたよねっ♡
♡♡♡

射精す瞬間、
もっと強く抱きしめてあげるから♡

ほら、我慢しないで

射精っちやえ♡



あつひやああああん♡♡♡

じゅ

いんやん♡

だて...

いん

いん

はい、

チビオスおもしろし
びゅるびゅる〜ん♡



女の子様に包まれながらの
ゼロ距離乳入り射精♡
これまで経験したことの無い快楽でしょ？

寝てるだけで勝手に自滅してくれて
アタシも楽ちんでーす♡

他のオス挿らえるのも面倒だし……
もう少し「J」のままでも良さそう？
その間、甘んじて我慢さなきゃ♡

ふふ、女の子のカンタレ
支配される気持ちよさ♡
わかりましたかあ♡



男たちは、なすすべもなく次々と捕らえられていった。
抵抗の声はすでに掻き消され、
アジトはもはや女たちの遊戯場と化している。
その中でも安息の場だったはずの仮眠室は、
今や捕らえた男を奴隷に墮とす
調教の場へと変えられていた。

「おっぱい♥
おっぱい欲しいん♥」

仄暗い中、柔らかな爆乳に縋りつき、甘え声を上げる男の姿。
そこに戦士としての誇りや威厳は、
もはや微塵も残されていないかった。



なあに♡ おっぱい飲みたいの？
ああそっか、仲間だった諜報員くんが墮とされたの見て
羨ましくなっちゃったんだ？

うんっ♡ おっぱい欲しいっ♡

ぷぷつ……♡
正直でいい子だねえ♡
でも分かってる？
私も母乳は出せるけど……
飲んじやったら確実に
廃人コース行きよ？

そ、それでも良いでしゅ♡
ぼくもミルクほしい♡

おっぱい

おっぱい



はいはい、わかったわよ♡

——どうぞ♡

爆乳ミルク、召し上がれ♡

んふふ♡
必死に吸いついちゃって、
もう後戻りできないのに
可愛いねえ♡
でもお……

ああああ♡
おっぱい♡
おいちい♡
おっぱい♡

ふ、ふ♡

う、う♡

う、う♡



はい、ストップ〜♡ もうおしまい♡

♡!?!?

ええ……もう!?!? やだぁ……もうと♡

そのまま!
お口は乳首から離しちやダメ♡
手もおっぱい掴んだまま
絶対離さないでね♡



！？ か、身体が……！！

動けなくなっちゃったね♡ほんの少しでもミルクを直飲みしちゃったら私の命令からは避けられない♡

んっふふっん♡

すぐ目の間におっぱいがあつたのに大好きなミルクもらえないの辛いねえ？悔しいね？

(お、おっぱいミルクう♡もっとお♡)

そんなに欲しいなら……♡



それえ♡『腰振りダンス開始♡』

(ひゃああああああ♡♡♡♡)

命令されてスケベ女体に抱きついての情けない太ももズリ♡

そうそう♡
ちっちゃい腰を必死に上下へっこへっこ動かしてガコちん擦りつけるの♡
こんなので射精したらきつと最高に気持ち良いしミルクもあげるから頑張れ♡

(はやくっ♡ おっぱいほしいよお……ああ♡)

あら、もう射精ちゃう？ いよいよ♡そのまま……



くすっ♡

『射精するな♡』

(!?!? え………?!?)

今、射精禁止命令を出したので
キミは射精けません♡
残念でした♡

(しよ、しよんなああ♡)

いきたいのにいけない………
でもズリへコは止められな……♡

こうして腰振ってる間にも
キンタマの中身グツグツ煮込まれて
はやく射精したいという欲望が高まる♡

射精寸前のいき場の無い快感だけが高まって頭おかしくなっちゃう♡
そしてさらに——♡



えいつえいつ♥ 爆乳おっぱい揺らして
頼りないへこへこダンスをサポートしてあげる♥
振り落とされないようにしっかりと掴まってね♥

(んっひいいいいん♥)

どう？キミの弱へこだけじゃ
一生味わえない快樂ダメーヅ♥
もう理性なんか溶けて
無くなっちゃう♥ああんっ♥
早く射精したい〜♥
おっぱい飲みたい〜ん♥

(らめえっ♥ こんにゃのお♥

死んじやうっ♥)

おっぱい

おっぱい

がっちっ♥

がっ...

がっ...



くす♥後悔しても遅いわよ？
最初から尻尾振って素直に媚びていれば優しくしてもらえるところでも思った？

弁えなさい、お前らは奴隷なの♥
脳内ち○ぽ丸出しのクソ猿を
ただ気持ちよくする
訳が無いでしょ♥

甘い考えのゴミオスには
ちやんと調教して
あげないとねえ？

(ひいん……♥♥♥)

お尻を
舐めたい

お尻を
舐めたい

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

がっ
ちゅっ

がっ
ちゅっ

がっ
ちゅっ



射精^だせ♡

そして飲め♡



ヤーン♡

イク♡
イク♡

ごっ♡

ぐっ♡...

(んあっひいひいひいひいん♡♡♡)

煮詰めたドロドロ精子お漏らしながらのおっぱいミルク
とってもおいちいでちゅねえ♡

女の子様に操られる恐怖と快感、
思い知ったかしら？

満足するまで飲んだらまた
射精管理調教してあげるから♡

せいぜい今は至福の一時を楽しんでね♡



アジト奥。

避難用の隠し部屋で、ただ一人だけ息を潜めていた男。
暗い空間に響いたのは、女の愉快そうな声だった。

「最後の一匹、見いつけた♡」

「ひい!!!」

「他の連中はもうみんな堕ちちやった♡
残ってるのはお前だけ♡」

「そ、そんなっ!!!」



誇らしげに揺れる爆乳を見せつけながら、
ゆっくりと歩み寄る女。
その威圧感に男は抗う気力も尽き、震えだす。

「そんなにおっぱいが怖いのか？
それじゃあ……♡」



頭を下げてお尻をおっぱいに差し出して.....
はーい♡

屈服降参奴隷ポーズの完成ー♡

とっても似合ってるよ♡

こーんな情けない
格好させられてんのに
恐怖で震えて動けないね♡

あーん♡

むちゅ♡

ひひひひひひ♡

ガク...♡

ブル...♡



私のなつがーい超爆乳♥
軽く寄りかけただけでも
すごい重量でしょ？

やだあ♥

お尻がビクビク

震えてるのがおっぱいに
伝わってくるよ♥

これからどんなこと
されちゃうのか
怖いでちゅかあ？

だいじょうぶ♥

落ち着いてくだちやい……





♡—っ！—っ！

—っ！—っ！

ぽんぽん

—っ！—っ！

わかんないっ！

？！？！

あつはっは、痛そ〜♡
今何されたかわかりまちゅかー？

おっぱいでその汚いお尻づつ叩いて
あげたんでちゅよーん♡

全身が痺れるような衝撃と
激痛で大変でちゅねえ♡

ガクガク震えて♡
もう一発おかわりあげまちゅね♡

やだ！
待って……

ちゅねえ……

30
30
30

30
30
30



は？
待ちまちなーん♡

えいっ♡
べちーん♡

ひぎゃああああああ！！

エビ



くす♥おっぱいで叩かれて
マジ絶叫とかウケるw

お、お願い……助けて……

助けて……って、
それ私に言ってるの？

なんで女の子様である私が
下等なオス奴隷のお前を
助けてあげなきゃ
いけないんでちゅかあ？

身の程知らずには立場の違いを
徹底的に教えてあげないとでちゅね♥



おーらー！

連続おっぱいゴメンタ♡

ぺちっ♡
ぺちっ♡
ぺちーん♡

お前みたいにも物わがりの
悪いクソバカは、強くて重たい
長乳おっぱい様に一方的に
ぶん殴られて
反省ちまちようねー♡

ほーん♡

ほーん♡

ニキイ♡

くらっ！

ひぎん！！

し♡



ぼいーん♡ ぷよんっ♡ ぽっよーん♡

ぷるぷるした柔らかか〜い

巨大乳肉が猛烈な勢いで襲いかかる〜♡

お尻ビクビク♡

真っ赤に腫れ上がっちやっつて

たいへーん♡

でも私はおっぱい全然痛くないから大丈夫♡

いや〜ん♡

おっぱい様強いよ〜♡

格差感じて悔しいよ〜♡

ガクッ

ひぎゃあ!!

あっ!

ああん♡

びっ...

惨めでちゅよねー？
お前も他のザコオス共も、
みーんなおっぱいに敗北^まける♡
これまで培ってきた経験も
積み上げた成果も
全部が台無し♡

女の子様にゼーんぶ
壊されちゃう♡
そんなのは当たり前♡
それがオスの運命♡
女権国へ行く前に奴隷としての
マインドを植え付けてもらいまちようねー♡

アア...♡

だっ

だれか助けてえ♡♡

やだやだあ♡



だから助けなんて来ねーよバーカ。
他のオス共も全員捕らえたっつただろ？
お前らは死ぬまで一生、
女の子様の顔色伺って
ビクビク震えながら
女権国のために働くの♡

憎い女の子様に
踏みにじられながら
コキ使われる人生の始まり♡
もちろん、ストレス発散用の
サンドバッグとしても
使ってあげまちゅよ♡

いっ！♡

あがっ♡

ひっ♡



あーあ、こんな虫けら共が
レジスタンスなんて本当笑わせる♡
おっぱいに屈服するため
だけに生まれてきた
無能オスが抵抗しようだなんて
烏^{おこ}澁がましいんだよ♡

オスに生まれた時点で
人生の敗北者なの♡お前らは♡
わかった？
わかったらお尻ぶっ叩かれながら
降参宣言してみようか♡

せーの♡

ひあ♡

やだっ♡

ああああっ♡

低能なオスが女の子様に逆らって
ごめんなひやいいいい♡♡♡

降参しましゅっ♡♡♡

女権国の奴隷として
生きていきまひゅっ♡♡♡



仲間を犠牲にして飲む背徳感トツトツ♪
おいちいでちゅかー？

あつー！

言い忘れてたけど

これがポクくんの

人生最後のミルクでちゅから♡

ゆっくり味わって飲んでくださいわいねー♡

♡ニヤニヤ♡

(ニヤニヤ)

ちゅ...



あれえ？

なにに不思議そうな反応してるんでちゅかあ？
お前はもう用済みなんだから
当たり前でちゅよねえ♡

欲しい情報は全部もらったし、
レジスタンスも
もう壊滅したんでちゅから。

これ以上ママがおっぱいあげる
メリットなんか無いじゃないでちゅか♡



もしがっつりえ.....
いつまでも特別扱いしてもええんやと思っちゃたかあ？

従順でいればすっつりええの
おっぱい独占せんとムセ
思っちゃたかあ？

はっ、思いとがんならっ？
マゾオスの分際で♡



ていうかミルクで快楽調教してあげた
その身体もかなり限界きてるもんね？

簡単に壊れちゃうよわーい
玩具なんてママいらなーい♡

くす♡
使われるだけ使われて
ママに捨てられるの悔しい？

だいちゆきなミルク
飲めなくなっちゃうの悲しい？



飲むだけで興奮止まらない♡
虐められたボロボロおちんぼも
強制的に元気になる♡

中毒性抜群の幸せ極悪ミルクを
最後にお腹いっぱい飲ませてやる♡

そして明日からのお前は
一生ミルクにありつけない
憐れなミルク中毒おっぱいマゾ奴隷♡
アハハハハ♡♡



!!!
あーあ、ミルク飲むの止めちゃって……

流石に最後の反抗心が働いたかな？

でせうーんなん♡



んまじう……

んく……

「飲め♡ 無駄な抵抗すんな♡」

『ぜんぶ飲み干さ♡コミカズン♡』



マジでいい加減学べよう？
お前らオスの抵抗なんて
1ミリも意味ねーんだっつもの♡

ほんつとザコカスの癖に
無駄なプライド持ちやがってよ

お前らは女の子様の言いなりに
なっつてれば良いんだよ♡

わかつたか？ おい？



おは
おは
おは

オスは一生地べたに這いつくばって
おっぱいに潰されて敗北してるのが
お似合いでちゅ♡

理不尽に襲われて、尊厳を奪われて、
都合よく利用されて♡

女の子様との圧倒的な力の差に
なすすべなくひれ伏してる♡
バーカ♡



こんなに酷い「」と言われてんの「」
女の子様の強さを骨の髄まで
刻みながらの格差ミルクおいちいね〜♡

ほんとバツカじゃねーの？お前。

そろそろ射精させてやるよ♡

おっぱいマン興奮最大まで高まったか？

こおまがゆ〜♡……♡♡



「射精^イけ♡ ガコオス♡」

「これからも一生

おっぱい^ま「敗北^まけてる♡♡♡♡」



っああああああああああん♡♡♡♡

おわり

